

Title	ソ連共産党、その構成員の民族的組成
Sub Title	CPSU membership : ethnic representation
Author	中沢, 精次郎(Nakazawa, Seijiro)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1975
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology ). Vol.48, No.7 (1975. 7) ,p.1- 31
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19750715-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19750715-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## ソ連共産党 その構成員の民族的組成

中 沢 精 次 郎

ソ連共産党を構成する一、四〇〇万余の党員（および党員候補）の多民族性はソ連人口の民族的な多様性からして自ら明らかであろう。党構成員の多民族性を語る数字は、きわめて部分的かつ断片的ではあるが、公表されていないわけではない。たとえば党中央委員会機関紙『党生活』（Партийная жизнь）には、党構成員の民族的組成を含む党に関する統計的な紹介がしばしば見受けられる。そこで、前回（一九五九年）から数えると一年を経て施行された国勢調査の最終的な『報告書』（Итоги Всесоюзной переписи населения 1970 года (в 7 томах)）が発表されたこの機会に、党員（および党員候補）の多民族性の実態を、可能なかぎり数量的に整理し、ソ連共産党が多民族政党であるが故に課せられている党管理上の問題とそうした問題の処理を論ずる際の若干の素材を用意したいと考えている。

### 一 共和国別党組織率

ソ連共産党の公式資料によると、党は、一九一七年の三月当時二万四千の党員を、その半年後の一〇月には三五万の党員

を擁していたという。黨員はその後ほぼ年々増加し、今日(一九七三年一月一日現在)では、黨員候補を合せると、その数は一四、八二一、〇三二名に達している<sup>(1)</sup>。したがってソ連人口の約六パーセント、入党年齢資格を満している人口についていえばその約九パーセントが党を構成していることになる。ところで、この一、四〇〇万をこえる黨員(коммунист)——以下、本稿では黨員(член КПСС)と黨員候補(кандидат в члены КПСС)から成る党構成員を、特にただし書きのないかぎり便宜上一括して黨員(коммунист)と呼ぶ——であるが、黨員の地域的分布は無論全連邦的である。しかしそこに粗密がないわけではない。

まず、各共和国——正確には各共和国ではなく各共和国共産党というべきであるが、ロシア共和国には周知のように共和国レヴェルの党組織はないので、かく表現する——の黨員数特に戦後のその増加についていえば、一九四六年の黨員数を基準にする<sup>(2)</sup>と、ロシア共和国では二・一倍ほど増加している。ついでグルジア共和国の二・五倍、アルメニア共和国の三・〇倍、トゥルクメン共和国の三・一倍、アゼルバイジャン共和国の三・二倍、キルギス共和国の三・七倍、カザフ共和国の四・一倍、タジク共和国およびウズベク共和国の四・六倍、ウクライナ共和国の七・七倍、白ロシア共和国の九・六倍といった順で次第に高くなり、エストニア共和国の一〇・八倍、ラトヴィア共和国では一二・二倍、そしてリトワニア共和国では実に一六・三倍という最高の増加率となつている。しかし黨員の増加率に見られる共和国間のこのような著しい差異は、たとえば一九四六年当時の共和国人口ではリトワニア共和国のほぼ二倍にあたるカザフ共和国の黨員一四八、六一二名に対してリトワニア共和国の黨員はわずか八、〇六〇名にすぎなかつたわけであるから、倍率算出の基礎とした一九四六年にさかのぼつて、改めて検討され直されるべきであろう。

改めて指摘するまでもあるまいが、リトワニア、ラトヴィア、エストニアの三国が併合されたのは一九四〇年のことである。この年の八月に相前後してソヴィエト連邦にソヴィエト社会主義共和国として編入された。したがってバルト三国の党

組織は一九四六年当時にあつても、数的にはなお依然として弱体であつたのである。全連邦の平均では人口の約三パーセントが党籍をもつていたと思われるその頃でも、バルト三国ではそれが〇・七パーセントにも達していない。人口二〇〇万をこえるモルダヴィア共和国の党員が一〇、八四六名にとどまつていたことも同じような事情によるものであつたといつてよい。この共和国は一九二四年以来自治共和国としてあつたが、一九四〇年の六月二十九日ソ連政府がルーマニア政府に「……、一 ベッサラヴィアの返還と……、二 北部ブコヴィアのソ連への割譲」<sup>(3)</sup>を要求しその結果手に入れたこれらの地域をウクライナ共和国に編入した八月二日に、自治共和国から連邦構成共和国へと昇格した。しかし、その後の一月四日、旧自治共和国当時の領域の大半をウクライナ共和国に譲り、改めてドニエストル河とプルト河にはさまれた北部ベッサラヴィアと中部ベッサラヴィアを中心とする共和国として組成されて今日に至つた。党員増加率の比較的高い白ロシア共和国とウクライナ共和国も、モルダヴィア共和国ほどではないが、戦中から戦後にかけて得た地域をその国土の一部としている。とはいえ、領土的な変化の見られない共和国間においても党員増加率には前記したような大きな開きがある。そこでまず、一般にしばしば利用される各共和国党員の対人口比率に注目してみよう。

第一表<sup>(4)</sup>

各共和国党員の対人口比率 (100パーセント)		
	1956年	1973年
ロシア	4.4	7.1
ウクライナ	2.5	5.1
白ロシア	2.0	5.0
ウズベク	2.1	3.5
カザフ	3.3	4.4
グルジア	4.9	6.3
アゼルバイジャン	3.8	5.0
リトワニア	1.6	4.1
モルダヴィア	1.6	3.3
ラトヴィア	2.7	5.5
キルギス	2.8	3.4
タジク	2.2	2.8
アルメニア	4.5	5.0
トゥルクメン	2.9	3.1
エストニア	2.2	5.5

共和国別に党員の対共和国人口比率を整理してみると、第一表に見られるように、一九五六年当時にあつてはグルジア共和国が最高の四・九パーセントそしてリトワニア共和国が最低の一・六パーセントであつたのに対して、一九七三年には最高がロシア共和国の七・一パーセント、最低はタジク共和国の二・八パーセントとなつており、いずれの共和国においても党員の増加にもなつて対人口比率は

上昇している。バルト三国のように党員増加率の高い共和国においては、当然ではあるが、党員の対共和国人口比率の上昇もまた著しい。しかし、各共和国の党員の対人口比率が平均化してきたわけでもない。たとえば、タジク共和国の党員の対人口比率は一九五六年当時においてはエストニア共和国のそれとほぼ等しかったが、その後この比率は両者ともに上昇してはいるものの、一九七三年にはエストニア共和国の党員の対人口比率はタジク共和国のその二倍になっている(第一表参照)。ところが、エストニア共和国では一四歳以下の人口が全人口の二二・〇パーセントであるのに対して、タジク共和国では全人口の四六・七パーセントを占めている(一九七〇年現在)。無論、共和国人口の自然増加率上の大きな開きはタジクとエストニアの両共和国間のみ見られるものではないのであつて、各共和国の人口の自然増加率は、第二表が示しているように、ソ連の国土を西と東に分けていえば一般に西が低く東が高い。また北と南に分けていえば一般には北が低く南が高い。このように人口の自然増加率が共和国によつて大きく異なる以上、党員の対共和国人口比率によつて個々の共和国の党勢を語ることは許されまい。党の実勢が時には著しく歪めて伝えられる危険をともなっているからである。したがつて各共和国の党勢を測るつまり党組織率を求めるには、少なくとも、共和国人口から年齢的に入党不可能な部分を除いておかなければならないであろう。

第二表<sup>5)</sup>

1959年の人口を100とした  
1970年の各共和国人口の  
自然増加率

ロシア	111
ウクライナ	113
白ロシア	112
ウズベク	145
カザフ	140
グルジア	116
アゼルバイジャン	138
リトワニア	115
モルダヴィア	124
ラトヴィア	113
キルギス	142
タジク	146
アルメニア	141
トゥルクメン	142
エストニア	113

第三表<sup>6)</sup>

党員の年齢別構成  
(100パーセント)

	1967年	1973年
25歳以下	5.0	5.7
26~30歳	—	7.4
31~40歳	—	31.0
26~40歳	46.5	—
41~50歳	25.6	29.2
51歳以上	22.9	—
51~60歳	—	16.3
61歳以上	—	10.4

入党の年齢資格について、現行党規約によると、「……党には、一八歳に達した者が採用される。二三歳以下の青年は全連邦レーニン共産主義青年同盟を通してのみ入党する」（第四条）とある。この「二三歳以下」というコムソモールを通して入党し得ない年齢制限は一九六六年の党規約の改正によつて引き上げられたのであつて、旧党規約では「二〇歳以下」とあつた。したがつて今日では、コムソモール員ではない青年男女は二三歳をこえる年齢に達しないかぎり入党できないわけであるが、二三歳以下でも入党できるコムソモール員の場合には、どの程度のコムソモール員としての在籍期間が入党の条件として要求されているのであろうか。『ソ連共産党の組織と規約、問答集』（Организационно-уставные вопросы КПСС）によると、「党規約はこの期間を定めてはいないが、黨員は一年以上にわたる共同の生産活動および社会活動によつて被推薦者を熟知している場合に推薦することができると規定している。したがつてコムソモール機関は、入党を希望するコムソモール員に推薦状を与える際にはこの規定に準拠する」とされている。したがつて、コムソモールには一四歳から加入することができるわけであるが、このコムソモールを通して入党した最年少者の黨員（член КПСС）は一九歳ということになる。というのは、黨員（член КПСС）として採用されるためには一年間の黨員候補（кандидат в члены КПСС）の期間を終えていなければならないからである。いいかえると、黨員候補の最年少者は一八歳のはずである。もつとも、青年の黨員は第三表から明らかのように相対的にも決して多くはない。最近では、黨員老齢化の傾向すら見受けられる。しかし、本稿では黨員数に黨員候補を含めているので、一八歳以上の人口すなわち成人人口にもとづいて共和国別の党組織率を算出してみよう。

まず最近の共和国別の黨員数であるが、第四表に見られるように、いずれの共和国においても漸増している。わずか二年足らずの間に黨員の倍増した共和国も二、三にとどまらない。また、一九六一年、一九六五年、一九六七年、一九七三年のいずれの時点を選んでも黨員はロシア共和国がもつとも多い。しかも他の共和国と比較して圧倒的に多数ではあるが、連

第四表⑧

共和国別党員数

	1961年	1965年	1967年	1973年
全党員数	9,275,826	11,758,169	12,684,133	14,821,031
ロシア	6,257,849	7,761,477	8,225,033	9,378,026
ウクライナ	1,370,997	1,829,638	2,044,191	2,479,636
白ロシア	225,541	319,196	359,595	460,983
ウズベク	224,519	314,279	353,841	449,558
カザフ	345,115	450,486	498,065	609,033
グルジア	216,866	248,375	265,730	305,326
アゼルバイジャン	153,221	198,539	221,694	269,745
リトワニア	60,551	86,366	99,379	131,539
モルダヴィア	59,908	85,379	99,024	121,367
ラトヴィア	72,519	95,742	107,353	133,938
キルギス	65,866	84,721	95,291	106,566
タジク	52,014	67,624	76,001	90,334
アルメニア	85,062	104,305	114,535	134,469
トゥルクメン	47,950	57,206	62,679	73,041
エストニア	37,848	54,836	61,722	77,430

ソ連共産党、その構成員の民族的組成

邦の全党員のなかでロシア共和国の党員の占める比率——対全党員比率が徐々に低下していることは見逃せないところである。また党員のもつとも少ないのはトゥルクメン共和国あるいはエストニア共和国であるが、これらの共和国の党組織は党員数の上ではロシア共和国の平均的な州（あるいは地方）の党組織よりもむしろ小さいということもここで指摘しておきたい。たとえば一九六六年の第二三回党大会開催当時、六地方と四九州（および一六自治共和国と五自治州と一〇民族管区）から成るロシア共和国には、トゥルクメン共和国の党組織よりも大きいもしくは同等と思われる党組織をもつ地方が六、州が三〇ほどあった。<sup>(9)</sup> エストニア共和国の党組織にしてもほぼ同様であつて、自治共和国を例にとつていえば、それは、タタールやバシキールといった自治共和国の党組織よりも遙かに小さく、ウドムルト自治共和国の党組織と同程度のものではないかと思われる。ところが、連邦を構成する共和国の党組織はロシア共和国以外はいずれも、党の最高機関として党大会をもちまた党大会閉会中の最高

機関としては党中央委員会を備えている。すなわち共和国の党組織は、形態上特に名称的には連邦の党組織とはほぼ一致している。しかし、州の党組織（党の組織の上では自治共和国は州として扱われている。たとえば、タタール自治共和国の党協議会はタタール州協議会という）よりも党員の多い——規模の大きい党組織をもつ共和国は、ロシア共和国を別にすると、ウクライナ、白ロシア、ウズベク、カザフ、グルジア、アゼルバイジャンの六共和国にすぎず、アルメニア共和国をはじめとする残りの八共和国の党組織はいずれも共和国名を付した党大会や党中央委員会をもつとはいえず、その実はつまり党員数の点では、ロシア共和国やウクライナ共和国のごく平均的な州の党組織と同程度もしくはそれ以下の存在でしかない（第六表参照）。したがって州の党組織と同格に扱われたとしても、それはまた止むを得なからう。では、党組織率から見た各共和国の実情はどのようなものであろうか。

一九五九年と一九七〇年の国勢調査の結果を基にして、一九六一年、一九六五年、一九六七年および一九七三年の時点で各共和国の成人人口<sup>10)</sup>を推計し、その時々<sup>10)</sup>の党員数の対共和国成人人口比率つまり共和国別の党組織率を求めると、第五表に記したような組織率が得られる。

すなわち、連邦全体としても党組織率は六・六パーセントから八・九パーセントへと大きく上昇しており、ロシア共和国では一〇パーセントをこえている。しかし、個々の共和国の党組織率となると、ロシア、ウクライナ、白ロシアの三共和国、バルト海沿岸のリトワニア、ラトヴィア、エストニアの三共和国、それにウズベク、アゼルバイジャンの二共和国では党組織率は大きくのびているものの、その他の共和国ではさほどではない。しかも、一九六七年から一九七三年の間にかぎって見ると、カザフ、キルギス、アルメニアの三共和国では党組織率は上昇しているどころか反対に低下しており、またトゥルクメン共和国では停滞している。しかしこの間においても党員は確実に増加しているのであつて、それがたまたま党組織率の低下ないしは停滞となつて現れたのは、これらの共和国の人口の急激に高い自然増加（第二表参照）によるものであると

## 第五表

共和国別党組織率 (100パーセント)

	1961年	1965年	1967年	1973年
ロシア	7.8	9.2	9.5	10.1
ウクライナ	4.6	5.8	6.4	7.2
白ロシア	4.2	5.5	6.0	7.4
ウズベク	4.6	6.0	6.6	7.1
カザフ	6.0	7.3	7.8	7.7
グルジア	7.9	8.5	8.8	9.6
アゼルバイジャン	6.9	8.3	9.0	9.6
リトワニア	3.2	4.3	4.8	5.9
モルダヴィア	3.3	4.3	4.9	5.1
ラトヴィア	4.6	5.9	6.6	7.5
キルギス	5.3	6.3	6.9	6.4
タジク	4.4	5.3	5.8	6.0
アルメニア	7.9	9.1	9.6	9.1
トゥルクメン	5.3	5.9	6.3	6.3
エストニア	4.3	6.0	6.7	7.6
全連邦平均	6.6	7.9	8.3	8.9

年齢層は主としてコムソモールに組み込まれている結果であつて、党の浸透力そのものが、弱いということでは決してないのである。

一九六七年から一九七三年にかけてというように期間をかぎってみると前記したように共和国によつては党組織率が必ずしも直線的に上昇しているわけではないけれども、過去一二年間を通してみるといずれの共和国でも党組織率は大きく上昇している。ところが、共和国相互の党組織率特にその最高と最低をくらべてみると、高低の著しい格差は依然として解消し

考えられる。いいかえるとカザフ、キルギス、アルメニア、トゥルクメンといった諸共和国では、年齢別党組織率(第三表参照)からすると党組織率の比較的低い青年層の成人人口において占める比率が非常に高いために、共和国の党組織率の停滞ないしは低下が生じたわけである。したがつて、今のところ——一九六七年から一九七三年にかけても党組織率の上昇が続いているタジク、アゼルバイジャンの二共和国においても、非常に高いその人口の自然増加の故に、青年層の党組織率が飛躍的に高まらないかぎりいずれは前記した四共和国と同じように党組織率の一時的な停滞あるいは低下が現れるであろう。もつとも、第三表に見られるように青年層の党組織率が他の年齢層とくらべると比較的低いということは、この

ていない。一九六一年当時のグルジア共和国（あるいはアルメニア共和国）とモルダヴィア共和国との間には四・七パーセントの開きがあつたが、現在（一九七三年）でも五パーセントの開きがロシア共和国とモルダヴィア共和国の間にある。しかし、このような党組織率上の著しい格差ないし不均衡は繰り返し指摘したように共和国特にその人口的な規模の大小と結びついているわけではないのであつて、たとえば、一九六一年当時のモルダヴィア共和国の人口が三〇三万、党組織率は三・三パーセントであつたが、人口四一九万のグルジア共和国と人口一八九万のアルメニア共和国の党組織率はともに七・九パーセントであつた。一九七三年の時点でいえば、党組織率七・六パーセントのエストニア共和国の人口は一二〇万であるが、人口三四二万のモルダヴィア共和国の党組織率が五・一パーセント、人口一一、七五三万のロシア共和国の党組織率は一〇・一パーセントである。したがつて共和国の党組織率はその人口的な規模と直接の関連はない。しかもまた、共和国間に見られるような党組織率の不均衡は共和国レヴェルのみならず、実は州レヴェルにおいても認められる。州（あるいは地方）の党組織率は資料的な制約から例外的にしか算出できないけれども、第六表に見られるように、たとえばスヴェルドロフスク州とヴォルゴグラード州との間には三・八パーセントの格差がある。もちろん、地域を共和国から州へさらに州から区あるいは市へと限定して行けば行くほど、別言すると州のレヴェルよりもより下位の党組織へと観察点を下げて行けば行くほど、同じレヴェルの単位間の党組織率上の格差ないし不均衡は時にはますます大きくなる。しかしながら、本章では個々の共和国の平均的な党組織率をつかむことを課題としているわけであるから、部分的には州単位の党組織率が問題となり得るとはいえ、観察の対象を州をこえてまで個別化する必要はまずない。

ところで、連邦を構成する各共和国はそこに居住する民族の名を国名としており、共和国の党組織もまた、たとえばウクライナ共産党といったようにその国の名を冠している。したがつて、五パーセントというロシア共和国とモルダヴィア共和国の党組織率上の格差がロシア人とモルダヴィア人の党組織率上の格差であるかのような印象を与えるかも知れない。しか

## 第六表①

1973年現在の主要な市、地方、州の党員数と党組織率  
(100パーセント)

	党員数	党組織率
モスクワ市	881,411	15.7
レーニングラード州	466,800	11.0
モスクワ州	416,573	9.6
ロストフ州	265,025	9.4
クラスノダール地方	258,001	7.8
ゴーリキー州	224,028	8.3
スヴェルドロフスク州	209,010	6.7
クワイブツィシエフ州	199,809	10.0
タタル州	188,573	8.9
バシキール州	182,260	7.3
サラトフ州	181,396	10.1
ケメロフ州	181,329	8.8
ヴォルゴグラード州	177,973	10.5
ヴォロネージュ州	176,394	9.4
チェリヤビン州	171,191	7.3

し、共和国党はそれと同名の民族のための党組織ではないのである。州人口の約九〇パーセントがロシア人によつて占められているスヴェルドロフスク州とヴォルゴグラード州との間にも、先きに紹介したように党組織率の上では三八パーセントという格差がある。それ故、各共和国の党組織率を観測した時点で合せて、各共和国民族の党組織率を調べてみよう。

## 一 民族別党組織率

ソ連共産党は一〇〇をこえる民族(とナロードノスチ)の党員から成つているという。党の多民族性についてはしばしば語られているけれども、詳細な民族別の党員数となると、それは明らかにされてはいない。わずかに公表されて

いる民族別の党員数は共和国をもつ民族すなわち一五の共和国民族にのみかぎられており、共和国民族よりもむしろ人口の多い諸民族(第七表参照)、たとえばユダヤ人やドイツ人は無論のことタタル人、チュバシユ人、モルドヴァ人、バシキール人といったいわゆる自治共和国民族についてすら党員数はまったく不明である。第八表に見られるように、共和国民族以外の諸民族(および諸ナロードノスチ)はすべて「その他の諸民族」として包括されている。

まず民族別の党員数であるが、一九六一年から一九七三年にかけて各民族の党員数は、第二表から明らかのように確実に

漸増している。共和国民族にかぎつていえば、このように黨員は年々増加してはいるものの、その速度はリトワニア人、モルダヴィア人、ウズベク人、アゼルバイジャン人において著しく、アルメニア人、グルジア人、ロシア人にあつてはさほど目立たない。しかし、依然としてロシア人黨員が圧倒的に多く、ついで多いのがウクライナ人黨員である。このことはソ連人口の民族的構成からして別に不思議ではなからう。一九七〇年の国勢調査によると、ロシア人は連邦人口の五三・四パーセントを、またウクライナ人は一六・九パーセントを占めている。しかし、個々の民族人口の対連邦人口比率と個々の民族黨員数の対全党員比率とは必ずしも平行してはいないのであつて、ロシア人黨員、グルジア人黨員、アルメニア人黨員が全党員のなかでそれぞれ占めている比率はこれらの民族が連邦人口においてそれぞれ占めている比率よりも高い（第九表参照）。ロシア人黨員の場合には特に高い。たとえば一九五九年の国勢調査によると、ロシア人人口の対連邦人口比率は五四・六パーセントであるが、ロシア人黨員の対全党員比率は六三・五パーセント（一九六一年現在）となつてゐる。したがつて、ソ連邦がロシア人的であるより以上にソ連共産党はロシア人的であるともいえよう。

ところが、一九六一年から一九七三年にかけて、なるほど黨員数では増加してゐるものの、ロシア人黨員、グルジア人黨員、アルメニア人黨員の対全党員比率は次第に低下してゐる（第八表参照）。特にロシア人黨員の場合は、その対全党員比率は六三・五パーセントから六〇・九パーセントへと大きく低下してゐる。これに反して、ウクライナ、白ロシア、ウズベク、アゼルバイジャン、リトワニア、モルダヴィア、ラトヴィアあるいはエストニアといった諸民族の黨員の対全党員比率が上昇している。したがつてこれらの民族においては、ロシア人の場合とは逆のかたちで、民族黨員の対全党員比率が民族人口の対連邦人口比率に近づいて来たということになる。もつとも、キルギス、タジク、トゥルクメンといった民族の黨員はエストニア人黨員と同様その絶対数が非常に小さく、したがつて対全党員比率もまたきわめて低い。ところが、キルギス人、タジク人、トゥルクメン人は、ウクライナ人や白ロシア人あるいはリトワニア人などと異なつて、人口の自然増加率

第十一表  
民族別党組織率 (100パーセント)

	1961年	1965年	1967年	1973年
ロシア	7.9	9.0	9.4	9.8
ウクライナ	5.3	6.5	6.9	7.9
白ロシア	5.3	6.7	7.2	8.1
ウズベク	4.2	5.3	5.7	6.5
カザフ	7.5	8.3	8.7	9.5
グルジア	9.6	10.3	10.7	11.5
アゼルバイジャン	6.8	8.4	9.2	9.8
リトワニア	2.7	3.7	4.2	5.3
モルダヴィア	2.0	2.9	3.2	3.6
ラトヴィア	3.4	4.3	4.8	6.0
キルギス	5.0	6.0	6.5	6.6
タジク	4.2	4.9	5.2	5.7
アルメニア	9.9	10.8	11.1	10.7
トゥルクメン	5.2	5.7	6.1	6.1
エストニア	3.6	4.9	5.4	6.5
その他の諸民族	5.8	6.6	6.9	7.6

の非常に高い民族である(第十表参照)。キルギス人やトゥルクメン人と言語的には同族のウズベク人、カザフ人、アゼルバイジャン人もまた民族人口の自然増加率はきわめて高い。したがって、これらトルコ系の諸民族の党員の対全党員比率もそれはすでに四・七パーセントから五・七パーセントへとびているが、民族人口の対連邦人口比率の急速な上昇を追って今後大いにのびるのではなからうかと予想される。それに反して、ロシア人党員の対全党員比率は次第に民族人口の対連邦人口比率に近づくであろう。しかも、現に見られるようなこの民族人口の自然増加率からすると、ロシア人の対連邦人口比率

が五〇パーセントを割ることはさして遠い将来のことでもないように思われる。しかし、党内における——無論、数量的にはあるが、——トルコ系の民族的要素の増進あるいはロシア人的要素の減退についての予測には、民族人口の自然増加率と合せて個々の民族の党組織率が問題となるはずである。各共和国の党組織率を算出したとまったく同じような方法で、民族別の党組織率を算出してみよう。

第十一表は、一九五九年と一九七〇年の国勢調査から推計した一九六一年、一九六五年、一九六七年および一九七三年の各共和国民族の成人人口を基にして得たその時代の民族別党組織率である。それによるといづれの民族の党組織率も、やはり、一九六一年から一九七三年にか

けて上昇している。しかも、この間の共和国別党組織率について見受けられたところとほぼ同じような傾向が民族別党組織率についてもまた認められる。すなわち、いわゆるスラヴ系のウクライナ、白ロシア、トルコ系のウズベク、アゼルバイジャン、および主してバルト海ぞいの地域に居住するリトワニア、ラトヴィア、エストニアといった諸民族の党組織率の上昇が特に著しいこと、いずれの民族の党組織率も上昇しているとはいえ一九六七年から一九七三年の間にかぎつてみるとトルクメン人の党組織率は停滞しアルメニア人のそれは明らかに低下していること、またグルジア人やアルメニア人に見られるような上位の党組織率とモルダヴィア人が代表している下位の党組織率との差、つまり民族間の党組織率上の格差は依然として解消されていないといつたことが、それである。しかし、民族別党組織率と共和国別党組織率との間には前述したようにいくつかの似かよつた傾向が認められるとはいうものの、改めてその一つ一つに当つてみると、相似よりもむしろ差異があらわになることも忘れてはなるまい。たとえば、民族間においても共和国間におけると同様に党組織率上の格差は解消されていないが、このような格差は共和国間におけるよりも民族間に見られる方がはるかに大きい。共和国間においては格差は最大でも五パーセント程度にとどまつているのに対して、民族間の場合には七・九パーセントと大きく開いている。また、アルメニア人もアルメニア共和国もそれぞれの党組織率は既述したように一九六七年以降低下しているが、アルメニア人口の自然増加率はアルメニア共和国人口の自然増加率のような高いものではない。したがつてアルメニア人の党組織率の低下現象を、アルメニア共和国の場合のように人口の自然増加率からのみ説明することはむづかしくなる。あるいはまた、党組織率の上昇が特に著しい諸民族についてであるが、ロシア共和国は既述したように党組織率の上昇が特に著しい諸共和国の一つに数えられるけれども、ロシア人は党組織率の上昇が特に著しい諸民族のなかには入れ難い。ロシア共和国の党組織率とロシア人のそれとは上昇の速度を異にしているからである。

しかしながら、民族の場合も既述した共和国の場合と同様その党組織率は、部分的には二、三の例外が見受けられるもの

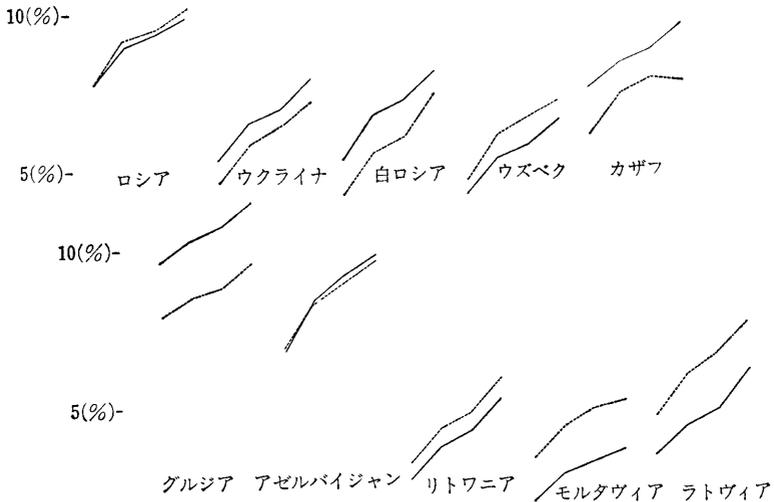
の、全般的には上昇している。一九六七年以降党組織率が低下しているアルメニア人にしても、一九六一年当時からすると○・八パーセントほどのびている。もちろん、この上昇のテンポは繰り返し指摘したように民族によつて（また共和国によつても）異なっているが、すでに記した共和国についてはしばらくおき、民族についていえば、一九六一年から一九七三年にかけて党組織率が二・九パーセントないしは三パーセントも上昇しているエストニア人やアゼルバイジャン人にくらべると、それが一・九パーセント程度のロシア人やカザフ人は、党組織率上昇の著しい民族とはいえないにしても、○・九パーセントたらずのトゥルクメン人やアルメニア人と比較すれば上昇の著しい民族として数えられなくもない。しかし、こうした相対的な比較を離れて、民族の党組織率とその民族と同名の共和国の党組織率のいずれが高いかという点に注目し、個々の民族と共和国のそれぞれの党組織率を対比させてみると、民族と共和国を同時にとらえたつぎのような整理が可能となる。

まず第一のグループにまとめられるものとして、ウクライナ、白ロシア、カザフ、グルジア、アゼルバイジャン、アルメニアの諸民族（ないしは諸共和国）が挙げられる。これらの民族の党組織率は、いずれも、それぞれの民族名を冠した——つまり国名とした共和国の党組織率よりも高い。しかもまた、ウクライナ人と白ロシア人を除くと、民族党組織率は無論のことと共和国党組織率もまた相当に高いという点でも共通している。

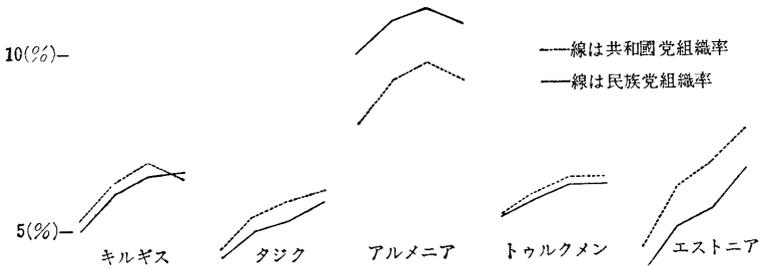
第二のグループに入れられるものは残りの諸民族（ないしは諸共和国）、すなわちロシア、ウズベク、リトワニア、モルダヴィア、ラトヴィア、キルギス、タジク、トゥルクメン、エストニアの諸民族（ないしは諸共和国）である。これらの民族の党組織率はいずれもそれと同名の共和国の党組織率よりも低い。しかも、ロシア人を除くと、民族党組織率は無論のことと共和国党組織率もまた比較的低いという点でも共通している。

こうした民族の党組織率と共和国の党組織率の優劣という点からの類別と関連して、さらに両者の隔たりつまり民族の党組織率と共和国の党組織率との開きに注目してみるのも意味のないことではあるまい。この開きは、第一図に見られるよう

ソ連共産党、その構成員の民族的組成



第 1 図



第 2 図

に、第一のグループに属するものにはグルジアとアルメニアで広く、アゼルバイジャンでは狭い。ところが、第二のグループに属するものではモルダヴィアとラトヴィアで広く、ロシアでは狭い。無論、開きの中間的なものは第一のグループにもまた第二のグループにも認められる。民族の党組織率が共和国の党組織率よりも高いからといって両者の開きが狭いわけでもないし、また民族の党組織率が共和国の党組織率よりも低いからといって両者の開きが広いわけでもない。こうした多様さはそもそもなにに由来しているのか。

ある民族がその民族名を国名とした共和国のみ居住しており、

しかもその国の全人口の一〇〇パーセントを占めているとすれば、共和国の党組織率と民族の党組織率とは、当然のことではあるが、完全に一致する。民族の党組織率が同時に共和国の党組織率でもあるということになる。しかし、実際には、自己の民族名を国名とした共和国のみとどまつているような民族も、また共和国人口がその国名と同名の民族からのみ構成されているといったような共和国もない。たとえばアルメニア共和国人口の一・四パーセントは非アルメニア人により、またグルジア共和国人口の三三・二パーセントは非グルジア人によつて占められている。グルジア共和国に居住するグルジア人は民族人口の九六・五パーセントであるが、アルメニア共和国に居住するアルメニア人は民族人口の六二・〇パーセントにすぎない。したがつて、アルメニア民族の党組織率とはアルメニア共和国のアルメニア人と他の諸共和国に居住するアルメニア人とを合せた彼等の平均的な党組織率のことであり、グルジア共和国の党組織率とはこの共和国に居住するアルメニア人の党組織率は、アルメニア民族の党組織率よりも、したがつてアルメニア共和国に居住するアルメニア人の党組織率よりも低いかも知れないし、グルジア共和国の非グルジア人の党組織率は、この共和国の党組織率よりも、それ故この共和国に居住するグルジア人の党組織率よりも高いかも知れない。自己の民族名を国名とした共和国にとどまつている同族の党組織率、あるいはこの共和国を離れている同族の党組織率は確かめられないものであろうか。

### 三 郷土定着型民族と他郷移住型民族の党組織率

一九七三年の一月一日現在、白ロシア共和国の全党員数は四六〇、九八三名、またアルメニア共和国の全党員数は一三四、四六九名である。ところが、連邦全体では白ロシア人党員は五二一、五四四名を、またアルメニア人党員は二二五、一三二名を数える。したがつて、白ロシア人党員特にアルメニア人党員の場合には、その多くが民族名と同名の共和国以外の諸

第十二表

民族人口における郷土定着人口の比率  
(100パーセント)

	1959年	1970年
ロシア人	85.8	83.5
ウクライナ人	86.3	86.6
白ロシア人	82.5	80.5
ウズベク人	83.8	84.0
カザフ人	77.2	79.9
グルジア人	96.6	96.5
アゼルバイジャン人	84.9	86.2
リトワニア人	92.5	94.1
モルダヴィア人	85.2	85.4
ラトヴィア人	92.7	93.8
キルギス人	86.4	88.5
タジク人	75.2	76.3
アルメニア人	55.7	62.0
トゥルクメン人	92.2	92.9
エストニア人	90.3	91.8

共和国つまり他郷に居住していることになる。無論、一〇・七パーセント（一九七三年現在）という前章で指摘したアルメニア人の党組織率とはアルメニア共和国のアルメニア人と他の諸共和国のアルメニア人を合せた彼等の平均的な党組織率のことであり、したがって郷土にいるアルメニア人の党組織率と他郷にあるアルメニア人の党組織率が著しくひらいていてもまたあり得るわけである。しかし、党員の民族別の分類——しかもそれは一五の共和国民族別の分類でしかない——について入手し得る数字は連邦レヴェルにのみかざられており、共和国レヴェルの数字は、たとえ共和国民族別の分類にせよ、ほとんど公表されていないので、個々の民族——無論、共和国民族——の郷土における党組織率と他郷における党組織率については抽象的にしか語る事ができないが、まず二、

三の民族について検討してみよう。

自己の民族名を国名とした共和国すなわち郷土に、その民族人口のなんパーセントがとどまつているか、それは、無論民族によつて異なる。第十二表に見られるように、郷土定着の度合もまた決して一様ではないのであつて、たとえばアルメニア共和国に居住する二二一萬のアルメニア人は民族人口の六二・〇パーセントにすぎないが、グルジア共和国には三一三萬のグルジア人すなわち民族人口の九六・五パーセントもが居住している。民族人口の圧倒的な部分はその民族名と同名の共和国に居住しているという点ではリトワニア人、ラトヴィア人などもまた郷土定着型の民族といえよう。

一九七〇年の国勢調査によると、グルジア共和国を離れて生活しているグルジア人の総数はわずか一一四、五五九名（民

族人口の三・五パーセント)にすぎず、グルジア人はまさに典型的な郷土定着型の民族である。したがって、グルジア人の平均的な党組織率(民族党組織率)と他郷にある同族の党組織率とが著しくかけ離れているとしても、それが一一・五パーセントという民族党組織率に与えている影響は、まったく取るに足らないほどのものとまではいえないにしても、改めて問題視するほどのものではなからう。したがって、グルジア共和国つまり郷土のグルジア人の党組織率はこの民族の党組織率と、ほぼ、等しいと見なければならぬ。グルジア人ほどではないが、やはり郷土定着性の高いリトワニア人、ラトヴィア人についても、郷土における彼等の党組織率はそれぞれの民族党組織率とほとんど変わらないであろうと思われる。たとえばラトヴィア人の場合、他郷にある八万八千の同族の党組織率がこの民族の党組織率よりも五パーセントも高い一一パーセント(あるいは五パーセントも低い一パーセント)であるとしても、民族党組織率はわずか〇・三パーセントほど上がる(あるいは〇・三パーセントほど下がる)だけである。したがって、郷土定着性の高い民族にあつては郷土にある彼等の党組織率はその民族の党組織率とほぼ一致すると見て差支えない。しかし、郷土定着性が高ければ高いほど民族の党組織率に郷土にある同族の党組織率が近づくという事は、他郷にある同族の党組織率については実はなにも語つてはいないのであつて、郷土を離れている同族の方が郷土の同族よりも、平均的に、はるかに高い(あるいははるかに低い)党組織率を示している場合もまた充分あり得る。

グルジア人が典型的な郷土定着型の民族であるとすれば、第十二表から明らかかなようにアルメニア人は典型的な他郷移住型の民族である。このタイプの民族としては他にタジク人、カザフ人、白ロシア人、ロシア人が挙げられよう。ところで、アルメニア人党員の総数はアルメニア共和国の全党員数よりも多く、白ロシア人党員もまたその総数は白ロシア共和国の全党員数よりも多い(第四表、第八表参照)ことはすでに指摘したが、まずアルメニア共和国のアルメニア人について、彼等の党組織率はこの民族の党組織率と一致すると仮定してみよう。その結果はまったく予想されないとどころでもないが、アルメ

ニア共和国のアルメニア人党員の総数がこの共和国の全党員数よりも約八千ほど多くなる。白ロシア共和国の白ロシア人の党組織率についても同じような仮定をしてみると、白ロシア共和国の白ロシア人党員の総数はこの共和国の全党員数を約四万八千ほど上回る。ところが、アルメニア共和国にしても白ロシア共和国にしても、その人口は国名と同名の民族からのみ構成されているわけではない。前者には六万六千のロシア人をふくむ二八万の非アルメニア人が、後者には九三万のロシア人をふくむ一七一万の非白ロシア人が現に居住している。彼等のなかに一人の党員もいないということがあり得るのであるか。すなわち、アルメニア共和国のアルメニア人あるいはまた白ロシア共和国の白ロシア人の党組織率はそれぞれの民族党組織率よりも低く、したがって他郷にある同族の党組織率は、平均的には、民族党組織率よりも高いと見なければならぬはずである。

郷土よりもむしろ他郷にある同族の方が党組織率が高い民族としてはまたウクライナ人が挙げられる。ウクライナ人は、郷土定着型か他郷移住型かといえば、他郷流出の度合はロシア人は無論のことアゼルバイジャン人よりも低いわけであるから、郷土定着型の民族といわなければなるまい。ところで、一九五九年の国勢調査の資料に基づいて推計するとこの民族の党組織率が四・五パーセント前後であつたと思われる一九五八年当時、ウクライナ共和国の全党員（一、〇七〇、四七〇名）の民族的構成は、『党生活』誌によると、ウクライナ人党員が六〇・三パーセント、ロシア人党員が二八・二パーセント、その他の諸民族の党員が一・五パーセントであつた<sup>(14)</sup>という。公表されたこの資料は個々の共和国の全党員の民族別構成を伝える資料としてはごく稀なものの一つであるが、それによると、ウクライナ人党員の対全党員比率（六〇・三パーセント）はウクライナ人の対共和国人口比率（七六・八パーセント）よりもはるかに低く、反対にロシア人党員の対全党員比率（二八・二パーセント）はロシア人の対共和国人口比率（二六・九パーセント）よりもはるかに高いわけであるから、この共和国のウクライナ人の党組織率はロシア人のそれよりもあるいは相当に低いのではなからうかといった予測が立たないでもない。果してど

うか。すでに試みた共和国別および民族別の党組織率算出の方法に倣つて試算してみると、ウクライナ共和国の党組織率は三・八パーセント、この共和国のウクライナ人の党組織率三・〇パーセント、そしてロシア人の党組織率は六・五パーセントということになる。したがつて、この民族の党組織率が前記したように四・六パーセントであつたとすると、他郷にあるウクライナ人党組織率は郷土の同族の党組織率よりもはるかに高くなければならないはずであろう。それは一三パーセント前後ではなかつたかとも思われる。ちなみに、ウクライナ共和国のロシア人の党組織率はこの民族の平均的な党組織率とほとんど變つていない。ところで、他郷にある同族の党組織率が民族党組織率よりもはるかに高い（郷土にある同族の党組織率は民族党組織率よりも一段と低い）という傾向はウクライナ人にも見られるところではない。他郷移住型の民族であるアルメニア人や白ロシア人にあつても、郷土の同族と他郷の同族との間には党組織率上の大きな格差が見られる。しかし、ウクライナ人の場合には民族党組織率と共和国党組織率がほぼ平行して、しかも郷土のウクライナ人人口と民族人口ののび率を上回る速度で上昇していることからすると、郷土の同族と他郷の同族との党組織率上の大きな格差が次第に狭まつてきているではなからうかとも思われる。

ところで、塩の濃度五パーセントの水溶液に濃度一〇パーセントの水溶液を加えると、自明のことだが全体の濃度は五パーセントを確実に上回る。比較的高い民族党組織率よりもさらに高い党組織率を他郷において示すアルメニア人、白ロシア人あるいはまたウクライナ人のような民族が他郷とする共和国の人口構成に参加している場合には、そのことによつて、この共和国の党組織率がかさ上げされているといつたような事例は充分予想されよう。もちろん、こうしたかさ上げ効果が充分に發揮されるためには、その共和国を他郷としてそこに居住する民族の質（党組織率）と量（人口）が問題となるはずである。しかし、この場合は質と量とがまさに相互補完的な関係をもつとはいへ、前記したようなかさ上げの効果を質の高さにかたよつて期待することは事柄の性質上無理であろう。量の問題すなわちその共和国を他郷としてそこに居住している民族

が共和国人口のなんパーセントを占めているかということこそが、まず中心にすえられるべき問題である。たとえば、典型的な他郷移住型の民族であり、しかもまた他郷にある同族の党組織率がそもそも高い民族党組織率よりもさらに高い民族であるアルメニア人を挙げてみよう。民族人口の八・四パーセントのアルメニア人がロシア共和国に、また民族人口の一・〇パーセントがウズベク共和国にそれぞれ居住しているが、ロシア共和国のアルメニア人はこの共和国人口からするとその〇・二パーセントを占めているにすぎない。ウズベク共和国においてもアルメニア人口はこの共和国人口の〇・四パーセントにしかあたらない。したがって、かりに、他郷にあるアルメニア人の二人に一人が党員である（したがって対成人人口比率では党組織率は五〇・〇パーセントをこえることになる）としても、果してどれほどのかさ上げ効果が期待できようか。ところが、ウズベク共和国には、民族党組織率自体がウズベク人よりはるかに高いロシア人が共和国人口の一・二・五パーセントを占めている。しかも、一・二・五パーセントというこの比率は、第十三表に見られるように、ロシア人の場合にはさほど高い対共和国人口比率ではない。したがって、他郷である共和国の党組織率かさ上げの主役はまずロシア人においては考えられなはずである。また、強いて脇役をさがすとすればそれはウクライナ人ということになる。明らかに、ラトヴィア共和国とエストニア共和国ではロシア人が、またモルダヴィア共和国ではロシア人とウクライナ人がそれぞれの共和国組織率のかさ上げに奉仕している。

しかしながら、ある共和国ではその党組織率のかさ上げに奉仕している民族が、他の共和国ではその党組織率の引き下ろしを手助けしているといったこともまたあり得るはずである。たとえば、グルジア共和国であるが、この共和国のグルジア人の党組織率は民族党組織率の一・五パーセントとほぼ等しいにもかかわらず、共和国党組織率は九・六パーセントにとどまつている。したがって、グルジア人の党組織率から見れば、共和国の党組織率は一・九パーセントも引き下ろされているということになる。このような二パーセント近くもの共和国党組織率引き下ろしの責任は、もちろん、この共和国人口の

三三・二パーセントを構成している非グルジア人が負わなければならないわけであるが、非グルジア人の七一・八パーセント（共和国人口の二三・八パーセント）は、アルメニア人、ロシア人、アゼルバイジャン人、ウクライナ人によつて占められている（第十三表参照）。アルメニア人をはじめとしてこれらの民族的な平均的な党組織率は、ウクライナ人のそれを除くと、いずれもグルジア共和国の党組織率よりも高いということはすでに指摘した。しかもまた、アルメニア人、ロシア人は一般に他郷では民族党組織率と同等かもしくはそれよりも高い党組織率を示している民族のほうである。この点では、ウクライナもまた例外ではない。とすると、前記した一・九パーセントというグルジア共和国とグルジア人の党組織率上の格差の説明はますます困難とならう。しかし、「他郷の或る共和国に居住する同族の党組織率は、この同族人口が農村型の場合には、他郷にあるすべての同族の平均的な党組織率よりも（時には民族党組織率よりも）低い、いいかえると「他郷の或る共和国に居住する同族の党組織率は、この同族人口が都市型の場合には、他郷にあるすべての同族の平均的な党組織率よりも（無論民族党組織率よりも）高い」という仮定を前提にすれば、問題の格差が説明できないわけでもない。第十四表に見られるように、グルジア共和国を他郷としてそこに居住している各共和国民族人口の都市人口比率については、アゼルバイジャン人は典型的な非都市型（農村型）であり、アルメニア人の都市人口比率は郷土の同族のそれよりもむしろ低い。ロシア人とウクライナ人にしても、それぞれの都市人口比率は他の共和国にある同族のそれと比較してみると決して高いとはいえない。ところが、エストニア共和国の場合には、この共和国人口の二四・七パーセントを占めているロシア人は無論のこと、二・一パーセントのウクライナ人、一・四パーセントの白ロシア人もまたそれぞれの都市化率は郷土にある同族の都市化率よりも、第十四表に見られるように、はるかに高い。そして、エストニア共和国の党組織率は、郷土定着度の高いエストニア人の党組織率よりも一・一パーセントほど高くなっている。



連邦レヴェルでは、都市化の進行にともなつて一九六一年に都市人口がはじめて農村人口を上回つてゐるが、共和国レヴェルでは、都市化の発展段階は無論のことその進行のテンポもまたさまざまである。ロシア、ウクライナ、白ロシア、リトワニアといった共和国では都市化が急速に進行しているが、ウズベク、キルギス、タジクの諸共和国ではその進行は停滞している。また、ロシア、ラトヴィア、アルメニア、エストニアの諸共和国では都市人口が総人口の五九パーセントをこえているが、ウズベク、モルダヴィア、キルギス、タジクの諸共和国では都市人口が総人口の三八パーセントにも達していない。したがつて、個々の共和国における同族人口の都市化の割合はその共和国の総人口の都市化の割合と見合せてこそ意味をもつものである。グルジア共和国では都市人口比率は四七・八パーセントである。このことからすると、グルジア共和国のロシア人の都市人口比率は八二・八パーセントであるから、郷土のロシア人の都市人口比率よりも、また無論郷土のロシア人の都市人口比率よりもはるかに高いことになる。それでは、グルジア共和国のロシア人はこの共和国の党組織率の引き下ろしに手をかけていないのか。この辺の疑問を解く手立ては今のところないが、こうした疑問がある以上、既述したロシア人の主役的な役割について、それが具体的にないしは結果的になにを意味しているかを改めてさぐつてみなければなるまい。

自己の民族名と同名の共和国に居住する民族つまり土着民族の総人口に対する首都居住の土着民族人口の比率と、その共和国に居住するロシア人の総人口に対する首都居住のロシア人人口の比率とは必ずしも一致しない。土着民族人口の首都集中の割合とロシア人人口の首都集中の割合とが一致しない以上、共和国人口における土着民族人口とロシア人人口の構成比率と首都人口における首都居住の土着民族人口と首都居住のロシア人人口の構成比率もまた平行しないはずである。まず、土着民族人口とロシア人人口の首都集中の割合を検討してみると、第十四表から明らかなように、エレヴァン(アルメニア共和国)以外のすべての首都で、首都集中の割合は土着の民族よりもいわばよそ者であるロシア人の方が高い。土着民族の首都集中度

第十五表

首都人口における共和国民族とロシア人の構成比率 (100パーセント)

	共和国民族の首都人口に占める比率	共和国民族の首都人口に占める比率
キエフ	3.0	5.8
(ウクライナ人)	64.8 (74.9)	37.2 (64.6)
ウクライナ人	4.1	26.4
ロシア人	22.9 (19.4)	30.7 (11.6)
ミンスク	8.3	22.3
(白ロシア)	65.6 (81.0)	40.9 (56.8)
白ロシア人	22.8	44.4
ロシア人	23.4 (10.4)	42.7 (29.8)
タウケン	6.6	5.5
(ウズベク)	37.1 (65.5)	11.8 (43.8)
ウズベク人	38.3	45.2
ロシア人	40.8 (12.5)	64.5 (29.2)
タルヌーワタ	2.1	6.0
(カザフ)	12.1 (32.6)	26.2 (56.2)
カザフ人	9.3	45.6
ロシア人	70.3 (42.4)	42.0 (11.9)
トビリシ	16.3	33.1
(グルジア)	57.5 (66.8)	95.3 (88.6)
グルジア人	31.3	32.6
ロシア人	14.0 (8.5)	2.8 (5.9)
バクー	15.5	6.8
(アゼルバイジャン)	46.4 (73.8)	38.2 (65.6)
アゼルバイジャン人	68.8	34.5
ロシア人	27.4 (10.0)	42.7 (14.5)
ヴァリナス	6.3	21.8
(リトuania)	42.8 (80.1)	55.7 (68.2)
リトuania人	34.0	38.0
ロシア人	24.5 (8.6)	35.0 (24.7)
キツニョフ		5.8
(モルダヴィア)		37.2 (64.6)
モルダヴィア人		26.4
ロシア人		30.7 (11.6)
リガ		22.3
(ラトヴィア)		40.9 (56.8)
ラトヴィア人		44.4
ロシア人		42.7 (29.8)
ワルソゼ		5.5
(キルギス)		11.8 (43.8)
キルギス人		45.2
ロシア人		64.5 (29.2)
ドジャソベ		6.0
(タジク)		26.2 (56.2)
タジク人		45.6
ロシア人		42.0 (11.9)
エレヴァン		33.1
(アルメニア)		95.3 (88.6)
アルメニア人		32.6
ロシア人		2.8 (5.9)
アシュハバード		6.8
(トルクメニ)		38.2 (65.6)
トルクメニ人		34.5
ロシア人		42.7 (14.5)
タリン		21.8
(エストニア)		55.7 (68.2)
エストニア人		38.0
ロシア人		35.0 (24.7)

ソ連共産党 その構成員の民族的組成

がロシア人のそれに比較的接近している首都は、キエフ（ウクライナ共和国）、トビリシ（グルジア共和国）、タリン（エストニア共和国）だけであつて、ミンスク（白ロシア共和国）、アルマアタ（カザフ共和国）、ヴィリヌス（リトワニア共和国）、キシニョフ（モルダヴィア共和国）、アシハバード（トゥルクメン共和国）ではロシア人の方がはるかに高い。特に、タシケント（ウズベク共和国）、バクー（アゼルバイジャン共和国）、リガ（ラトヴィア共和国）、フルンゼ（キルギス共和国）、ドシャンベ（タジク共和国）ではロシア人人口の半数近くかあるいは半数以上が首都に居住している。では、首都人口の構成比率ではどうか。まず、エレヴァンを除いてはすべての首都で、首都人口に対するロシア人人口の構成比率は共和国人口に対するロシア人人口比率を上回つており、反対に、首都人口に対する土着民族人口の構成比率は共和国人口に対する土着民族人口比率を下回つている。そして、タシケント、アルマアタ、リガ、フルンゼ、ドシャンベ、アシハバードではロシア人が首都人口の半数近くかあるいは半数以上を構成しており、その他の首都でも、土着民族の方がロシア人よりも多いとはいへ、四倍ほどの開きのあるトビリシを別にすれば、キエフ、ミンスクで約二・八倍、バクー、ヴィリヌス、タリンで約一・七倍、キシニョフで約一・二倍程度の差である。しかし、この点でもエレヴァンは例外であつて、土着民族のアルメニア人が首都人口の九五・三パーセントを構成している（ミンスク、バクー、フルンゼ、ドシャンベ、アシハバードにはそれぞれの首都圏の人口が加えられている）。

要するに、アルメニアのエレヴァンを唯一の例外としてその他の共和国の首都では、ロシア人人口のきわめて高い都市化率、就中首都への集中にともなつて、人口構成の上ではロシア人的な色彩が非常に濃厚になつてることが明白となつた。こうした傾向が共和国党の中枢的な組織である首都の党組織の民族的な構成に投影されないはずはない。すなわち、「他郷の或る共和国に居住する同族の党組織率は、この同族人口が都市型の場合には、他郷にあるすべての同族の平均的な党組織率よりも（無論民族党組織率よりも）高い」のであるから、他郷にあるロシア人の党組織率も民族党組織率を大きく上回つているのであらうとは思われるが、かりにそれが民族党組織率を幾分下回つているとしても、まず、カザフ、キルギスの二共和国

の首都の党組織では必ず、またウズベク、ラトヴィア、タジク、トゥルクメンの四共和国の首都の党組織ではほぼ間違いない、ロシア人党員が絶対な多数を占めているものと思われる。残りの八共和国についてであるが、リトワニア人およびエストニア人の高い郷土定着性と比較的低い民族党組織率を、またモルダヴィア人の非常に低い民族党組織率ときわめて低い都市化率を特に考慮していえば、ロシア人の党組織率がこの民族の平均的な党組織率と等しいがぎり、リトワニア、エストニア、モルダヴィアの三共和国の首都の党組織の構成員の少なくともその半数はロシア人党員によつて占められているはずである。また、ウクライナ、白ロシアの二共和国あるいはそれにアゼルバイジャンを加えた三共和国の首都の党組織では、首都人口に対する土着民族人口の構成比率とロシア人人口のそれとがさほど大きく開いていないという点を計算に入れると、ロシア人の党組織率がこの民族の平均的な党組織率を上回つていなくとも、その構成員の半数近くをロシア人党員が占めていると思われる。しかしながら、グルジアとアルメニアの二共和国の首都の党組織では、ロシア人党員は相対的な多数にもなり得ていないのではないかと考えられる。

党組織率の問題もまた、党員に関する統計的な資料が次第にふえてきているとはいえ、なお、多くの仮定を設けないかぎり論議を進めることができない。したがつて、解明されるべき疑点の数をただ徒らにふやすといつたおそれは警戒しなければならぬが、ここで、明らかとなつたことの一つは、党内におけるロシア人党員の数量的な意味での絶対的な優位は測点を連邦レヴェルではなく共和国レヴェルに、さらには共和国の首都レヴェルに据えることによつてはじめて鮮明になる、ということである。連邦レヴェルの数字あるいは平均的な数値には、ロシア人党員の絶対的な優位を単的に語るといふよりはむしろそれを曖昧にするような危険性がある。たとえば、連邦レヴェルの数字に現われているロシア人党員の党内における構成比率の低下傾向はロシア人党員の絶対的な優位性の減退を伝えるものではない。共和国レヴェル——若干の例外はある



1943年	2,451,511	1,403,190	3,854,701	1959年	7,622,356	616,775	8,239,131
1944年	3,126,627	1,791,934	4,918,561	1960年	8,017,249	691,418	8,708,667
1945年	3,965,530	1,794,839	5,760,369	1961年	8,472,396	803,430	9,275,826
1946年	4,127,689	1,383,173	5,510,862	1962年	9,051,934	839,134	9,891,068
1947年	4,774,886	1,277,015	6,051,901	1963年	9,581,149	806,047	10,387,196
1948年	5,181,199	1,209,082	6,390,281	1964年	10,182,916	839,453	11,022,369
1949年	5,334,811	1,017,761	6,352,572	1965年	10,811,443	946,726	11,758,169
1950年	5,510,787	829,396	6,340,183	1966年	11,548,287	809,021	12,357,308
1951年	5,658,577	804,398	6,462,975	1967年	12,135,103	549,030	12,684,133
1952年	5,853,200	854,339	6,707,539	1968年	12,484,836	695,389	13,180,225
1953年	6,067,027	830,197	6,897,224	1969年	12,958,303	681,588	13,639,891
1954年	6,402,284	462,579	6,864,863	1970年	13,395,253	616,531	14,011,784
1955年	6,610,238	346,867	6,957,105	1971年	13,745,980	626,583	14,372,563
1956年	6,767,644	405,877	7,173,521	1972年	14,109,432	521,857	14,631,289
1957年	7,001,114	493,459	7,494,537	1973年	14,330,525	490,506	14,821,031
1958年	7,296,559	546,637	7,843,196				

(2) 一九四六年と一九七三年(いずれもその年度の一月一日現在)の共和国別の党員数(党員候補をふくむ)は左記の表によつて紹介する(CM, "КПСС в цифрах", Партийная жизнь, No. 14, 1973, с. 11.)。なお、ロミア共和国の党員数はこの共和国には共和国レヴェルの党組織がなりので発表されていなし。したがつてそれは、全党員数が、ロミア共和国以外の一四共和国の党員数の合計したものを除いて得た数字である。

(3) Jane Degras (ed.), Soviet document on Foreign Policy, London, 1953, vol. III, pp. 458-61.

(4) 一九五六年(一月一日)現在の各共和国の党員数(ただし、ロミア共和国の党員数は発表されず、そのためそれは推計によつた)と各共和国人口 Ellen Mickiewicz, Handbook of Soviet Social Science Data (New York, 1973) 244。

ソ連共産党、その構成員の民族的組成

## 共和国別党員数

	1946年	1973年	1946年	1973年
ロシア	4,535,554	9,378,066	セルダヴィヤ	10,846
ウクライナ	320,307	2,479,636	ラトヴィヤ	10,987
白ロシア	48,213	460,983	キルギス	28,745
カズンク	96,981	449,558	タジク	19,645
カザフ	148,612	609,033	トルメニヤ	45,379
ブルジヤ	121,321	305,326	トルクメニ	23,502
ラゼルバインジヤン	85,571	269,745	エストニア	7,139
リトウニヤ	8,060	131,539		77,430

(5) 本稿において使用した人口統計上の資料はすべて、一九五九年一月一五日の国勢調査(その報告書は ПСУ СССР 編集の Итоги всесоюзной переписи населения 1959 года, в 16 сборниках, Москва 1962) と一九七〇年一月一五日の国勢調査(その報告書は ПСУ СССР 編集の Итоги всесоюзной переписи населения 1970 года, в 7 томах, Москва, 1973) による。したがって特に必要がなうかぎって、調査時点の月日を明示しない。

(6) 一九六七年一月一日現在の党員の年齢別構成は“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 19, 1967, c. 16 以下。また一九七三年一月一日現在のそれは“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 14, 1973, C. 19 以下。

(7) Организационно-уставные вопросы КПСС, Москва, 1972, c. 83.

(8) 一九六一年一月一日と一九六五年一月一日現在の共和国別党員数は“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 10, 1965, c. 8 以下。一九六七年一月一日現在の共和国別党員数は Справочник партийного работника, выпуск седьмой, Москва, 1967, c. 443 以下。また一九七三年一月一日現在のそれは“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 14, c. 11 以下。なお、一日一日ごとの調査時点の表は、本論ではすべて省略した。

(9) 各州(あるいは各地方)の党員数はほとんど発表されていない。いく一部の州(あるいは地方)の党員数が、時々、たとえば党大会などの際に発表されるにすぎない。したがって党大会代議員数を一つの目安として党組織の規模を比較してみた。第二三回党大会の代議員(および代議員候補)は党

員二、五〇〇名(党員候補二、五〇〇名)について一名の割合で選出されている。各共和国あるいは各州(地方)党組織選出の代議員数の算出には、XIII съезд Коммунистической Партии Советского Союза, стенографический отчет, Москва, 1966, том, III に記載されている大会代議員名簿を利用した。

(10) 一九六一年、六五年、六七年および七三年の、それぞれ一月一日現在成人に達していたと思われる人口の算出には、国勢調査の年齢別人口構成に関する資料を利用した。死亡率については主として ЦСУ の Народное хозяйство СССР を利用したが、六一年版と六二年版には共和国別の死亡率表は取せられていない。

(11) 第六表に挙げた主要な市、地方、州の党員数は“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 14, 1973, c. 11-12 による。対象とした市、地方および州の成人人口の推計方法は各共和国の成人人口を推計した方法に倣っている。

(12) 第七表は国勢調査に基づいた一九五九年一月一日現在と一九七〇年一月一日現在の主要民族の人口である。

(13) 一九六一年(七月一日)現在の民族別党員数は“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 10, 1965, c. 12 に、一九六七年(一月一日)現在のそれは“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 19, 1967, c. 14-5 に挙げた。また一九七三年(一月一日)現在の民族別党員数は“КПСС в цифрах”, Партийная жизнь, No. 14, 1973, c. 18 に挙げた。

(14) “Коммунистическая Партия Украины в цифрах”, Партийная жизнь, No. 12, 1958, c. 59.

(15) 一九七〇年一月一日の国勢調査による。

(16) 一九七〇年一月一日の国勢調査による。

(17) 一九七〇年一月一日の国勢調査による。

第七表

## 主要民族の人口

	1959年	1970年		1959年	1970年
ロシア人	114,113,579	129,015,140	ドイツ人	1,619,655	1,846,317
ウクライナ人	37,252,930	40,753,246	チェバン人	1,469,766	1,694,351
ウズベク人	6,015,416	9,195,093	トゥルクメン人	1,001,585	1,525,284
白ロシア人	7,913,488	9,051,755	キルギス人	968,659	1,452,222
タタール人	4,967,701	5,930,670	ラトヴィア人	1,399,539	1,429,844
カザフ人	3,621,610	5,298,818	ダゲスタンの諸ナロードノスチ	944,213	1,364,649
アゼルバイジャン人	2,939,728	4,379,937	モルドヴィン人	1,285,116	1,262,670
アルメニア人	2,786,912	3,559,151	バシキール人	989,040	1,239,681
グルジア人	2,691,950	3,245,300	ポーランド人	1,380,282	1,167,523
モルダヴィア人	2,214,139	2,697,994	エストニア人	988,616	1,007,356
リトワニア人	2,326,094	2,664,944	ウドムルト人	624,794	704,328
ユダヤ人	2,267,814	2,150,707	チェチェン人	418,756	612,674
タジク人	1,396,939	2,135,883	15の共和国民族以外の諸民族	21,195,466	24,308,167

第八表

## 民族別党員数とその対全党員比率(100パーセント)

	1961年	1965年	1967年	1973年
全党員数	9,626,700 (100.0)	11,758,200 (100.0)	12,684,133 (100.0)	14,821,031 (100.0)
ロシア	6,116,700 (63.5)	7,335,200 (62.4)	7,846,292 (61.9)	9,025,363 (60.9)
ウクライナ	1,412,200 (14.7)	1,813,400 (15.4)	1,983,090 (15.6)	2,369,200 (16.0)
白ロシア	287,000 (3.0)	386,000 (3.3)	424,360 (3.3)	521,544 (3.5)
ウズベク	142,700 (1.5)	193,600 (1.6)	219,381 (1.7)	291,550 (2.0)
カザフ	149,200 (1.5)	181,300 (1.5)	199,196 (1.6)	254,667 (1.7)
グルジア	170,400 (1.8)	194,300 (1.7)	209,196 (1.6)	246,214 (1.7)
アゼルバイジャン	106,100 (1.1)	141,900 (1.2)	162,181 (1.3)	212,122 (1.4)
リトワニア	42,800 (0.4)	61,500 (0.5)	71,316 (0.6)	96,558 (0.7)
モルダヴィア	26,700 (0.3)	40,300 (0.3)	46,562 (0.4)	59,434 (0.4)
ラトヴィア	33,900 (0.4)	44,300 (0.4)	49,559 (0.4)	61,755 (0.4)
キルギス	27,300 (0.3)	35,000 (0.3)	39,053 (0.3)	46,049 (0.3)
タジク	32,700 (0.3)	41,900 (0.4)	46,593 (0.4)	58,668 (0.4)
アルメニア	161,200 (1.7)	187,900 (1.6)	200,605 (1.6)	225,132 (1.5)
トゥルクメン	27,300 (0.3)	32,400 (0.3)	35,781 (0.3)	44,218 (0.3)
エストニア	24,400 (0.3)	33,900 (0.3)	37,705 (0.3)	46,424 (0.3)
その他の諸民族	866,100 (9.0)	1,035,300 (8.8)	1,113,263 (8.8)	1,262,133 (8.5)

第九表

## 民族人口の対連邦人口比率(100パーセント)

	1959年	1970年
ロシア人	54.6	53.4
ウクライナ人	17.8	16.9
白ロシア人	3.8	3.7
ウズベク人	2.9	3.8
カザフ人	1.7	2.2
グルジア人	1.3	1.3
アゼルバイジャン人	1.4	1.8
リトワニア人	1.1	1.1
モルダヴィア人	1.1	1.1
ラトヴィア人	0.7	0.6
キルギス人	0.5	0.6
タジク人	0.7	0.9
アルメニア人	1.3	1.5
トゥルクメン人	0.5	0.6
エストニア人	0.5	0.4
その他の諸民族	10.1	10.1

第十表

## 1959年の人口を100とした1970年の各民族人口の自然増加率

ロシア人	113
ウクライナ人	109
白ロシア人	114
ウズベク人	153
カザフ人	146
グルジア人	121
アゼルバイジャン人	149
リトワニア人	115
モルダヴィア人	122
ラトヴィア人	102
キルギス人	150
タジク人	153
アルメニア人	128
トゥルクメン人	152
エストニア人	102
その他の諸民族	115

第十三表

共和国人口を構成している主要民族の人口とその構成比率(100パーセント)

ロシア共和国	130,079,210	100	レズギン人	137,250	2.7
ロシア人	107,747,630	82.8	その他の諸民族	209,474	4.1
タタール人	4,757,913	3.7			
ウクライナ人	3,345,885	2.6	リトワニア共和国	3,128,236	100
チュヴァシ人	1,637,028	1.3	リトワニア人	2,506,751	80.1
バシキル人	1,180,913	0.9	ロシア人	267,989	8.6
モルドヴィン人	1,177,492	0.9	ポーランド人	240,203	7.7
...			白ロシア人	45,412	1.5
白ロシア人	964,082	0.7	ウクライナ人	25,099	0.8
ユダヤ人	807,915	0.6	ユダヤ人	23,564	0.8
...			その他の諸民族	19,218	0.5
カザフ人	477,820	0.4			
...			モルダヴィア共和国	3,568,873	100
アルメニア人	298,718	0.2	モルダヴィア人	2,303,916	64.6
...			ウクライナ人	506,560	14.2
アゼルバイジャン人	95,689	0.1	ロシア人	414,444	11.6
モルダヴィア人	87,538	0.1	ガガウズ人	124,902	3.5
グルジア人	68,971	0.1	ユダヤ人	98,072	2.7
その他の諸民族	7,431,616	5.6	ブルガリヤ人	73,776	2.1
			その他の諸民族	47,203	1.3
ウクライナ共和国	47,126,517	100			
ウクライナ人	35,283,857	74.9	ラトヴィア共和国	2,364,127	100
ロシア人	9,126,331	19.4	ラトヴィア人	1,341,805	56.8
ユダヤ人	777,126	1.6	ロシア人	704,599	29.8
白ロシア人	385,847	0.8	白ロシア人	94,898	4.0
ポーランド人	295,107	0.6	ポーランド人	63,045	2.7
モルダヴィア人	265,902	0.6	ウクライナ人	53,461	2.3
ブルガリア人	234,390	0.5	リトワニア人	40,589	1.7
その他の諸民族	757,957	1.6	ユダヤ人	36,680	1.6
			その他の諸民族	29,050	1.1
白ロシア共和国	9,002,338	100			
白ロシア人	7,289,610	81.0	キルギス共和国	2,932,805	100
ロシア人	938,161	10.4	キルギス人	1,284,773	43.8
ポーランド人	382,600	4.3	ロシア人	855,935	29.2
ウクライナ人	190,839	2.1	ウズベク人	332,638	11.3
ユダヤ人	148,011	1.6	ウクライナ人	120,081	4.1
その他の諸民族	53,117	0.6	ドイツ人	89,834	3.1
			タタール人	69,373	2.4
ウズベク共和国	11,799,429	100	ウィグル人	24,872	0.8
ウズベク人	7,724,715	65.5	カザフ人	21,998	0.8
カラカルバク人	230,258	2.0	タジク人	21,927	0.7
ロシア人	1,473,465	12.5	その他の諸民族	111,374	3.8
タタール人	573,733	4.9			
カザフ人	476,310	4.0	タジク共和国	2,899,602	100
タジク人	448,541	3.8	タジク人	1,629,920	56.2
朝鮮人	147,538	1.3	ウズベク人	665,662	23.0
ウクライナ人	111,676	0.9	ロシア人	344,109	11.9
キルギス人	110,726	0.9	タタール人	70,803	2.4
ユダヤ人	102,855	0.9	ドイツ人	37,712	1.3
トルクメン人	71,041	0.6	キルギス人	35,485	1.2
その他の諸民族	328,571	2.7	ウクライナ人	31,671	1.1
			ユダヤ人	14,615	0.5
カザフ共和国	13,008,726	100	トルクメン人	11,043	0.4
カザフ人	4,234,166	32.6	カザフ人	8,306	0.3
ロシア人	5,521,917	42.4	その他の諸民族	50,276	1.7
ウクライナ人	933,461	7.2			
ドイツ人	858,077	6.6	アルメニア共和国	2,491,873	100
タタール人	287,712	2.2	アルメニア人	2,208,327	88.6
ウズベク人	216,340	1.7	アゼルバイジャン人	148,189	5.9
白ロシア人	198,275	1.5	ロシア人	66,108	2.7
ウィグル人	120,881	0.9	クルド人	37,486	1.5
朝鮮人	81,598	0.6	その他の諸民族	31,763	1.3
ドゥンガン人	17,284	0.1			
その他の諸民族	539,015	4.2	トルクメン共和国	2,158,880	100
			トルクメン人	1,416,700	65.6
グルジア共和国	4,686,358	100	ロシア人	313,079	14.5
グルジア人	3,130,741	66.8	ウズベク人	179,498	8.3
オセチン人	150,185	3.2	カザフ人	68,519	3.2
アブハジャ人	79,449	1.7	タタール人	36,457	1.7
アルメニア人	452,309	9.7	ウクライナ人	35,398	1.6
ロシア人	396,694	8.5	アルメニア人	23,054	1.1
アゼルバイジャン人	217,758	4.6	その他の諸民族	86,175	4.0
ギリシャ人	89,246	1.9			
ユダヤ人	55,382	1.2	エストニア共和国	1,356,079	100
ウクライナ人	49,622	1.1	エストニア人	925,157	68.2
クルド人	20,690	0.4	ロシア人	334,620	24.7
その他の諸民族	44,282	0.9	ウクライナ人	28,086	2.1
			白ロシア人	18,732	1.4
アゼルバイジャン共和国	5,117,081	100	フィン人	18,537	1.4
アゼルバイジャン人	3,776,778	73.8	ユダヤ人	5,288	0.4
ロシア人	510,059	10.0	その他の諸民族	25,659	1.8
アルメニア人	483,520	9.4			